

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-118	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
The relationship between labour market categories and alcohol use trajectories in midlife. 中年期における労働者区分と飲酒状況の経過の関連		
<b>執筆者</b>		
Colell E, Bell S, Britton A.		
<b>掲載誌</b>		
J Epidemiol Community Health. 2014 Nov; 68(11):1050-6.doi: 10.1136/jech-2014-204164.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、中年、労働者区分		25073593
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> <p>中年期における労働者区分と飲酒の変化に関する研究は少なく、その結果も一致していない。これは主に、労働者区分を包括的かつ明確に定義できていないことと、研究期間が短いことによるものと思われる。本研究では、男性および女性で異なる労働カテゴリーを用いて、17年間という期間で、中年期における飲酒状況の経過について調査した。</p>		
<b>方法：</b> <p>National Child Development Study の4つの地域の33～50歳の対象者9,960名のデータを用いて、労働者区分と週単位の飲酒量の縦断的な変化の関連についてマルチレベルモデルで切片と傾きのβ値を検討した。</p>		
<b>結果：</b> <p>フルタイム雇用の男性群において、飲酒量は追跡期間を通じて減少した（β=-0.14、95%信頼区間：-0.18~-0.11）。一方、仕事をもつ女性群においては、飲酒量は追跡期間を通じて増加した（β=-0.06、95%信頼区間：0.04~0.08）。「主に病気（休職あるいは無職）」の男性および女性では、飲酒量は有意に急峻に減少した。主婦であったが仕事をするようになった女性群においては、追跡期間を通じて最も急激に飲酒量が増加した（β=0.05、95%信頼区間：0.01~0.09）。</p>		
<b>結論：</b> <p>「雇用されている」ことは、中年の男性と女性いずれにおいても飲酒の強力な決定因子であった。職場は健康促進プログラムや節酒政策の格好の対象であると考えられる。ただし、現在飲酒量が少ない者は過去に大量飲酒者であった可能性があり、飲酒量健康効果を解釈する際には注意が必要である。</p>		